



近森会グループ

発行 ● 2007年12月1日

www.chikamori.com  
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

# びるっぱ 12

Vol.257

長崎リハビリテーション病院から70人のご一行様、研修を修了

## 飛躍を期して長崎へ

●2007年4月から11月まで、長崎の社団法人是眞会から70名のスタッフが近森会に出向し、主に近森リハビリテーション病院で研修が行なわれた。いよいよ修了する時期を迎え、三つの部門から代表者それぞれに研修を振り返っていただいた。



◀こちらは研修開始時

▼2007年11月22日、日航旭ロイヤルホテルで開かれた壮行会の開始を前に威風堂々の長崎チーム。先発で帰られた皆さんは参加できませんでした…

近森リハビリテーション病院 研修おつかれさま会



### 生きた数字の意味



齊藤 俊一郎  
管理部研修

近森会への出向。龍馬が好きで高知に強い憧れを持っていた私の高知行き

は、そんな形で、突然実現することになりました。

私は唯一の事務職員として、管理部にお世話になることとなりました。

一般企業から転職して間もなかった私は、病院のことなど何も分からない素人でした。「イセツ」「DPC」「タンソウ」「エダラボン」などなど、専門用語や略語が飛び交う話を、まるで英会話の聞き取りをやっているように、聞き取れた単語のみノートの隅にメモし、後で調べるという日々が続きました。

赴任直後から各部署を1日ずつ研修で回らせていただいた時のこと。1日でも早く、病院の仕組みを理解したいと焦っていた私は、挨拶もそこそこに質問し、それをメモすることに必死になっていました。そんな中、ある研修先で指導の方から「この研修の目的は何だと思いますか?」と尋ねられ、質問の意図を理解できなかった私は答えに閉口しました。その方からは、こんなことを言われました。「たった1日の研修でその部署を理解するのは到底無理です。この研修の目的は、今後自分が仕事をしていく上で、誰に何を聞けば良いのかを理解し、必要な時に聞ける人脈を作る第一歩ではないでしょうか」と。

病院の事務職はどうあるべきか?

近森病院に勤務させていただきその答えが少し見えたような気がします。

※次頁へ

### 我が家がいちばん



近森 正幸

夏休みのフランス旅行や、院内旅行でのスペイン・アンダルシア、東京出張と、外泊の多い時期だったこともあるが、どんなシャトーホテルに泊まっても、どれほどすばらしいレストランの食事であっても、家でお風呂に入って食事をし、自分のベッドで休める我が家がいちばん幸せを感じる。

ベッドやトイレ、お風呂にしても、長い間に自分たちの使い易いように快適にしてきた。なによりも朝夕の食事を我が家で食べるのがいちばん

である。ダシは昆布と鰹節でしっかりきれいにし、澄みきったコンソメなど、我が家のスープや料理はヘルシーさではトップレベルではないか、などと密かに思っている。

前に「高知がいちばん」と書いたが、もっといって、心が安まる我が家がいちばんということである。今のような多忙な仕事をしていてもそれほどストレスを嵩じさせていないのは、そんな温かい我が家があるからだと妻に心から感謝している。

食事でも朝ご飯がもっとも大事だと思うが、ふだんは身体のことも考え、人参とリンゴのジュースと辰己さんのスーパーミールをダシで溶いていただいている。息子が帰って来たときは、白いご飯にダシのよく出た味噌汁、弘岡カブの漬け物、土佐沖でとれたおじゃこと大根おろしなど。自分の身体にあった食事が摂れるのがしみじみと嬉しい。

理事長・ちかもり まさゆき

## ※前頁より

一にコミュニケーション。最終的に事務職がすべきことは、お金の計算です。病院に最大の利益をもたらすための試算を繰り返さなければなりません。しかし、その数字が現実と乖離し、一人歩きしては意味がありません。帳票で上がってくる数字を鵜呑みにするのではなく、各専門職とコミュニケーションをとりながら、生きた数字を常に把握していなければならないということ。

二にコミュニケーション。医師、看護師、コメディカル、各専門職が自分の専門分野に特化できるように、専門職でなければ、その人でなければできない業務に特化してもらうために、余計な業務に費やす時間が極力少なくなるよう各職場環境をつくる。そのためには、やはり各専門職とコミュニケーションがとれていなければならない。

三にコミュニケーション能力。これもひとつの才能です。あいにく私は得意な方ではありませんが、それが事務職の仕事であることを痛感しました。

来年2月に長崎リハビリテーション病院の開院を迎えます。医療の知識はまだ薄く、点と点が線で結べない状態ですが、長崎に帰ってから、事務職として自分は何を大切にしていけばか理解できたような気がします。

各部署の皆様、そして最もご迷惑をおかけした松本総務部長補佐、本当にありがとうございました。

## ● 12月の歳時記 ●

## フリージア

近森病院第二分院 医事課

東野典子 吉門志穂



フリージアとはアヤメ科フリージア属の総称で、半耐寒性の球根植物です。南アフリカで植物採集をしていたデンマークの植物学者・エクロンが発見し親友のドイツ人の医者・フレーゼの名をつけて紹介したのが名前の由来となっているそうです。

和名はアサギスイセン（浅黄水仙）、コウセツラン（香雪蘭）です。

花言葉はあどけなさ、清い香り、親愛、慈愛、期待、感受性、あこがれ、純白、潔白。フリージアの花は白や黄、ピンクなど色も豊富でとても良い香りがします。

## チーム医療を行動に



近森リハ病院2階西病棟  
洗川喜咲子

スタートから9ヵ月を迎え、11月30日をもって研修が終わろうとしています。急性期だけの看護の経験のなかで、「もっと時間をかけて患者さんとの関わりが出来ないだろうか」と考えているときに、近森会への研修の機会を得ました。回復期病棟の経験を積むことで、リハビリテーションマインドと徹底したチームアプローチの習得を目標に学んできました。「チームアプローチ」「チーム医療」を言葉では理解できても、行動に移すことがすごく

たいへんで…。リハスタッフにはたくさんの方の事を丁寧に指導していただきました。

長崎に帰っても、近森会での学びを原点にこれからも自己研鑽し、ひとりでも多くの患者様が住み慣れた地域へ帰れるよう、長崎スタッフ全員で取り組んでいけるよう頑張ります。

## ベストな教育的環境



北村奈津子  
近森リハ病院言語療法科

4月に長崎から高知へ出向してから、早いもので研修も終了となります。勤務し始めた当初は、緊張と不安でただただ必死だったことを思い出します。

研修で感じたことは、スタッフの多さゆえのメリットです。新人から経験豊富な先輩方まで一緒に働けることは、お互いに刺激し成長し合うためには理想的な環境だと思います。

新人がベテランから学べることはいうまでもありませんが、新人の思いもよらぬ発想がまたベテランにとって大きな刺激になるであろうことも実感しました。長崎リハビリテーション病院もおそらく似たような環境になるだろうと思います。教育的な環境がベストと思える近森会を体験できたことはとても貴重でした。ありがとうございました。

しばらくは開設に向けて忙しい日が続くと思いますが、研修で学んだことを活かしながら長崎リハビリテーション病院独自のカラーを出していきたいです。スタッフの皆さま、患者の皆さま、本当にありがとうございました。

## 聴診器

近森病院 HCU 病棟  
看護師長  
佐野登代子

## 絶品！のたこ焼き

私の作るたこ焼きは絶品の味です。家族や友人達の間では美味しいと評判で3～4年前から友人や近森病院の仲間達が集まり、たこ焼きパーティーを行っています。

つい最近も近森病院を退職した仲間が訪れ、たこ焼きをしました。たこ焼き器が古くなったのか焦げ目が強くいつものたこ焼きが作れず残念でした。「せっかくみんなが来てくれたのに、たこ焼き器が古くなったのか、きれいに焼けなかった」と娘に言うとお母さん、このたこ焼き器はもう元を取ったのじゃない」と言われ、それもそう

かと納得しました。うちのたこ焼き器はいろんなところへ出張に出掛け、かなり活躍してくれました。たこ焼きのおかげでいろんな人達とコミュニケーションが図れ、友人達の輪が広がり、長年の友人仲間との絆も続いていることを実感し、たこ焼きに感謝しています。来月もいつもの友人達が集まり、たこ焼きパーティーを予定しています。(で、写真は実際開いたときのです)。



第44回  
地域医療講演会

## 医療安全セミナー

## 参加者の切実な要求を感じ

2007年10月25日に、高知城ホールにおいて、テーマは「自殺を防ぐ」—その理解と対応について—

近森病院第二分院（精神科）

4階病棟看護師長 武田直子

▶当日のスタッフの皆さん。講師は前列中央に草色のジャケット・日本臨床心理研究所の松井紀和所長、順に左へ高知県健康づくり課の谷聡子チーフ、近森病院看護部の上総満高主任と精神保健福祉士の檜垣千穂SW。後列左から4人目は、司会を務めた武田直子看護師長

精神科グループが担当して開催した医療安全セミナーには、170名以上の皆さんが非常に熱心に参加してくださいました。

今回は、精神科グループ内で準備委員会を設置し、尾花智科長を中心に、多職種が医療安全委員会との連携をとりながら、企画や運営について準備をすすめてきました。精神科の医療安全のテーマとして何がニーズなのかを考えていくことがなかなか大変で、自分



たちのしていること、できていることを振り返りながらかなり議論をしました。

「自殺防止」という大きなテーマを決定してからも、どのように展開していくのかの意見を出し合い、**大きな視点からの見方と、深い心理的背景をみることと、具体的実践という、とても欲張りな内容**となってしまいました。

アンケートを120名以上の方が寄せてくださり、「どれもがとても勉強になった」「もっと、ゆっくり講演が聞きたかった」「実際のかかわりを詳しく知りたい」など、多くの感想などが寄せられ、その切実さや幅の広さを感じたとともに、自分たちの果たす役割についても再認識しました。

今後、まず、自分たち自身がさまざまな視点からの連携を強め、身近な問題を見逃さず、心のかかわりを深めることで自殺防止に積極的に取り組んでいきたいと思えます。

## 第45回 地域医療講演会

## 心房細動のカテーテルアブレーション治療

福岡大学循環器内科講師 熊谷浩一郎先生をお迎えして、2007年11月2日に、

内科部長 深谷眞彦

管理棟5階会議室において

心房細動は日常診療で遭遇することの多い不整脈です。しかし、症状が強いためのQOL（生活の質）低下や、抗不整脈薬治療の効果が出にくい場合があるなど、悩まされることも少なくありません。

この心房細動の根治を目的とする**非薬物治療として高周波カテーテルアブレーション法**があります。

高周波カテーテルアブレーション治療は各種の頻拍性不整脈に行なわれており、近森病院でも非常に良好な治療成績をあげています。

カテーテル電極を使用した心臓カテーテル法で、臨床心臓電気生理学的な**不整脈の確定診断**を行い、その**不整脈を根治させる標的部位を決定**します。これに**カテーテル電極から高周波を通电して標的部位を潰す治療法**です。

心房細動の場合は、左房に流入する4本の肺静脈領域が主な標的部位になります。しかし、心房細動へのカテーテルアブレーション法は手技、方法、治療成績などの点でまだ一般的な治療



▲左から浜重直久近森病院副院長、深谷眞彦内科部長、熊谷浩一郎先生、近森正幸理事長

法にはいたっていません。

今回の講演会で講師をお願いした熊谷先生はこの領域の本邦の**第一人者のお一人**です。先生は多くの自験例の根治成績を向上させるべく工夫を重ね、その成績を広く発表してきています。

また、先生は心臓電気生理学的な基礎研究や、薬物治療の領域でもよい仕事をしています。

以上の先生の実績や技術の確かさを見て、**心房細動へのカテーテルアブレーションの技術指導は熊谷先生から**と考えました。過去に4回ほど高知医療センターに来ていただきましたが、事情もあって今回から近森病院に来ていただくことに致しました。



▲最後の質疑応答で質問に立つのは、要致嘉（かなめ のりよし）内科科長

今回は2日間で2名の患者さんに治療して成功しました（当日午後1名、翌日午前1名）。その間に今回の講演会開催となりましたが、ハードな日程の中で技術指導しつつの治療や講演会を快諾していただきました。

講演会では多くの聴衆の中に**患者さんの姿を認めると、急遽スライドを編集して、やさしい内容の話を入れる**こともされました。私は常に全力投球される先生の姿に熱いものを感じました。

当院で熊谷先生を中心に行なった心房細動のカテーテルアブレーション治療の成功と講演会には、近森病院の多くの職員の熱意と協力がありました。心から感謝いたします。

熱烈

乞

管理職に昇格しました。応援してください。

応援

# オルソの病棟に鼓動が聞こえる



近森オルソリハビリテーション病院  
5・6階(回復期)病棟・看護師長

中谷 明未 (右)

平成19年10月15日、旧在宅総合ケアセンターの建物が、整形外科の回復期リハビリを専門とする病院に生まれ変わり、患者様の受け入れが始まりました。

ひとり、またひとりと患者様が入院され始めると、それまでひっそりとしていた病室に照明がつき、人の行き来にあたたかい風が吹き、人の息遣いが聞こえるようになりました。

私たちは整形外科の急性期医療を引き継ぎ、早期の社会復帰のために、専門的なリハビリテーションを提供する病院のスタッフとして生まれ変わりました。回復期病棟の師長として、スタッフと共にさらに成長を遂げ、自慢できる病棟そして病院になるよう、力を尽くしていきたいと思っています。強い心臓で、鼓動が途切れることのないように頑張ります。

## 巡りくるツリーの季節に

# 会えて良かった……

近森オルソリハビリテーション病院  
4階病棟・主任 近藤 さち (左)

就職しオルソに異動になるまでの十数年間、整形外科の急性期病棟で勤務してきました。急性期では2週間という短い間で十分に患者さまと接する機会・時間もないためメンタル面でのフォローが課題でした。しかし、オルソではリハビリが主体となり、入院期間も長期になります。これからは、身体的なケアはもちろんですが、メンタル的なフォローを行い、「あなたのために」をモットーに一日でも早く社会復帰できるように他職種と協力していきたいです。

常に笑顔を絶やさず、患者さまには気軽に声をかけてもらえるよう、癒しを与えるような存在でありたいと思います。まだまだ未熟ですが、これからも頑張りたいと思います。



近森オルソリハビリテーション病院  
4階病棟・主任 丁野 美也子 (右)

始まりの初夏から晩秋の半年間は慌ただしく駆け抜け、10月のオルソリハビリテーション病院の開院を迎えました。

整形外科の急性期を引き継ぎ、安心して暮らせる早期の社会復帰のために最適なリハビリテーション医療を提供するという理念に基づき看護を展開します。

まだ日常業務を覚えることに精一杯で本来の主任としての役割は果たせていませんが、松岡師長、近藤主任と共に頑張りたいと思います。入院中の患者様が穏やかに療養出来る環境を作るために、笑顔と優しい言葉を心がけます。

先日、患者様に「あなたに会えて良かった」と言っていたととても嬉しく感じました。オルソ病院に来て良かったと、全ての患者様、家族の方々に思ってもらえるように努めます。

近森オルソリハビリテーション病院  
5階病棟・主任 山崎 成美 (左)

今の環境にスタッフが早く慣れて、少しでもよい看護サービスが提供出来るように体制を整えることが大事だと思っています。

松田病院の開鎖が決まり、約5カ月経ちました。しばらくは患者様を看護することから遠ざかっていたのですが、病院の開院後患者様を迎えて、また元のようにお世話することができるようになってとてもうれしく思いました。そう思ったのは他のスタッフも一緒だと思います。この時期、心をつなげて病院が軌道に乗るように引っ張っていくことが私の役割だと思っています。今回初めて一緒に仕事する方もいますが、それぞれが良い関係になれるように調整し目を配って行きたいです。

また自分自身を振り返って見ると、家には子どもが3人いて常に家事に追われています。今後は仕事プラス研修等にも参加して人間的にも成長できるようにしていきたいし、ときどきは自分を見つめ直す時間も作りたと思っています。



①

★飾り付けに奮闘！した  
四国管財と施設用度課の  
皆さん。おかげで今年  
も楽しめます。



③

## 前向きに悔いなく



近森病院 3階西病棟・看護師長  
斎藤 尚子

10月1日付で3東病棟より異動となり、師長の辞令をいただきました。なにぶんわからないことや初めて遭遇することも多く、病棟の仲間や他の師長さん方に助けていただきながら1カ月があっという間に過ぎました。その中

で師長としての責任の重さをひしひしと感じています。

3西病棟は、入退院に加え手術件数も多く、また10月15日にはオルソリハビリテーション病院も開院したことでますます活気にあふれた病棟であるといえます。

ほとんどの患者様が手術目的で入院されることから、安心して手術が迎えられる個々の患者様の目標に向けた看護が提供できるよう他職種との連携を密にし、患者様と誠実に向き合い、患者様の声を大事に、退院が迎えられるよう、また退院までの橋渡しのお手伝いができるよう取り組んでいきたいと思っています。

同時に、忙しい病棟にあって看護のやりがいを見失うことのないように病棟の仲間が働きやすい職場環境を整えていくことができるように努力していきたいと考えています。

「前向きに、悔いなく生きる」をモットーにまだまだ未熟な私ですが、頑張りますのでご指導のほどよろしくお願ひいたします。

## 薬用酒アラカルト<sup>25</sup>ドクダミ酒



身体の中からキレイに元気に!今回はドクダミのお茶を使ったお酒に挑戦しました。材料のドクダミ茶は、またまた近森理事長より、日曜市で見つけたお奨めの一品をいただきました。

### <材料>密閉容器1リットル分

ドクダミ茶/60g、ホワイトリカー/約900ml

<作り方>①ドクダミ茶の中に、ゴミや異物がないことを確かめる。

②そのまま容器に入れ、ホワイトリカーを注ぐ。

③1ヵ月目ぐらいから飲めるようになる。

※ドクダミは、古来より民間薬として利用されており、漢方名を「十葉」といいます。江戸時代に貝原益軒(かいばらえきけん)著の『大和本草』の中に「十種の薬の能ありて十葉となす」と記されているように、ドクダミは様々な効果をもっています。便秘、アトピー、ニキビの改善、動脈硬化、高血圧、利尿、疲労回復など、ドクダミ酒にはたくさんの効果があります。その他に、美肌やダイエットにも効果があると言われていいます。

漬け込んでから約3ヵ月後、『ひろっぱ』編集委員による試飲会を行いました。漬かっていたお茶の葉は、試飲会の1週間前に濾して、いかにも効きそうな深い褐色のお酒になりました。良薬口に苦しかと思いきや、「夏草の香」、「雑味がなく、シンプルな味」、「体にやさそう」、「胃を締める感じで、食欲のないときに効きそう」など、意外にさっぱりした感想をいただきました。また「スツと喉を通り、飲んだ後に鼻腔に残る香りは、アールグレイのルーツとなった中国茶、正山小種(ラブサンスーチョン)に似ている」という声もいただきました。

●余談ですが、正山小種とは中国福建省で作られる世界最古の紅茶です。龍眼を想わせる香りがし、西洋の人々はこの不思議な香のお茶に魅せられたそうです。西洋には龍眼がないため、香料として、近い雰囲気のパルガモットの精油を添加して作られたお茶がアールグレイの始まりといわれています。

ストレート、ロックで飲むと少しアールコール分が強い感じがするので、炭酸水や、サイダーで割ると飲みやすくなります。食欲がないときには食前酒として、また健康や美容のために少量ずつ、いかがでしょうか。(文と画 薬剤部 嶋崎 ユリカ)

## 出張報告 ●平成19年度 広域医療搬送実働訓練の報告

# 臨機応変の対応

ER(救急センター)科長 井原則之

地震など大災害が発生した場合、被災地の医療機関の診療能力は低下し、重傷者の治療が困難となります。このため、そのような傷病者を自衛隊航空機等で被災地外に搬送し、遠隔地の病院で治療します。これを「広域医療搬送」と呼びます。

9月1日に、近森病院DMAT(災害派遣医療チーム)6名は政府総合防災訓練にあわせて行われた広域医療搬送実働訓練に参加しました。

午前8時30分、内閣総理大臣から東海地震警戒宣言が発令。午前10時00分、駿河湾を震源とする東海地震(M8.0)が発生。携帯メールでDMAT派遣要請。午前10時20分、緊急対策本部で広域医療搬送の実施が決定。携帯メールで広島西空港に参集要請あり。同空港に参集。午前10時40分広島西空港から、C-1輸送機で陸上自衛隊浜松基地へ、午前11時50分浜松基地内に設置された広域搬送拠点で医療活動を行う。午後3時00分傷病者3名を広島へ搬送した。

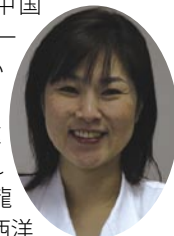
飛行機が苦手な隊員もいるなかで、半ば強制的に自衛隊機に乗せて、笑顔の



●参加隊員:根岸正敏、西本陽央、村田美和、山崎明美、北村昌久、井原則之。近森病院DMAT隊員の勇姿? 広島西空港で自衛隊C-1輸送機に搭乗飛行中、格納庫内で医療活動



隊員もいれば硬直して言葉が出なくなる隊員もいましたが、1時間ほどで無事に浜松に到着。浜松では、全国13チームのDMATと役割分担・連携しつつ医療活動を行い、無事に傷病者を被災地外に搬送しました。勿論、訓練シナリオは各隊員には教えられておらず、予想外の事態も多々ありましたが、臨機応変に対応しながら頑張ることができました。いざという時に最大限の活動ができるよう、今後も更なるスキルアップを図っていきます。



## 医療講演会 社会保障制度改革と今後の医療経営

横浜市立大学医学部客員教授・独立行政法人福祉医療機構理事

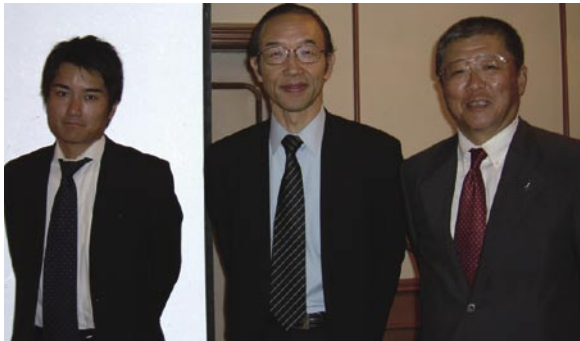
小田清一氏をお迎えして、2007年9月26日に、高知パレスホテルで

### 目線を変え角度を変えて見る重要性

開催通知が遅くなったにも拘わらず、お忙しい中たくさんの方々にご参加いただいた講演は、社会保障制度についてのプリチェックテストから始まり1時間以上にもわたる内容の濃い熱のこもったものでした。

「どうして診療報酬は上がらないのか?」「道路を作る予算を社会保障に回せないの?」「消費税を社会保障の財源にすれば解決するのでは?」などの問いに回答する形で、国家予算における社会保障費の内容を紐解き、なぜ国が社会保障、医療制度改革を推し進めようとしているのかを分かりやすく解説していただきました。

また、福祉医療機構におけるリスク債権の状況変化、金利水準の増加が医



▲左端は担当スタッフの松本庄平さん。中央に小田清一氏。右端は挨拶に立った川添昇管理部長。療経営に与える影響の分析、今後の療養病床転換に対する支援策から平成20年度診療報酬改定の予想にまで話は及びました。

日頃開催される地域医療講演会とは趣を異にする内容で、目線を変え角度を変えて物事を見ることの重要性を認識させられる講演でした。

#### リレーエッセイ

### 働かざるもの食うべからず。



食欲の秋、スポーツの秋といいますが僕にとって秋と言えば稲刈りの時期。毎年のように金色に輝く畑、まるで「風の谷のナウシカ」に出てくる風景。けれどそんなに幻想的な風景は始めだけ。いざ稲刈りが始めると究極の肉体労働。炎天下の中一株ずつ稲を鎌で刈っていき4-6株を一まとめにして藁で縛りまとめていきます。そんな苦勞せずにコンバインを使えばいいとお思いでしょうが、実家の田んぼは片田舎で道路が少ししか整備されておらずコンバインが入らない所がほとんどといった状況。一日腰を曲げて稲を刈っています。

臨床工学技士 村岡 直紀

そんな地味な作業は延々と続けられ昼食時には汗だくのクタクタ…。全員お風呂に入ってから昼食を食べます。昼食時が唯一の休憩、水分と糖分を補給し午後から始まる長い戦いに備えて体力回復。午後からの作業も特に変わらず中腰作業。ただ変化するのが天気と気温。時間が経つにつれジリジリと背中が焼けていく感覚がわかるんです。この作業が17時頃まで続けられ、その後に天日干しするために稲を竹竿にかけて一日が終了する。幸い今回の天気は曇りになり少し風が吹いていたので仕事しやすい日でした。長い一日だけ夕食は最高にうまく感じるんです。言うまでもなく一汗かいた後のビールもたまりません。

毎年この時期は休日が潰れ散々に疲れるんですけど収穫された米は家族の1年分の米となるんです。

白ご飯が食べられなくなるのは嫌なんで手は抜けません…。

## 第77回

# 救急医療 症例検討会

近森病院 ER(救急センター)部長

根岸正敏

## 知識を現場に活かす

11月7日、近森リハビリテーション病院会議室において第77回救急医療症例検討会が行われました。ER 根岸の司会で、最初は脳内出血の症例について、まず香美市香北分署の公文徹朗さんより搬送状況の説明があり、その後、ER 竹内敦子医師による経過報告がありました。

次に脳梗塞症例について、中消防署旭出張所の中島正貴さんから搬送状況説明、そして神経内科の橋本恵子医師より経過説明がありました。いずれも比較的頻度の高い脳卒中の症例でしたが、ともに不穏や異常行動など非典型的な症状で発症したため、初期診断が困難な症例でした。二人の医師からは脳卒中診断について、詳細な説明がありました。



▲左から根岸部長、香美市香北分署の公文徹朗さん、中消防署旭出張所の中島正貴さん、神経内科の橋本恵子医師、右端がERの竹内敦子医師

最後に、ER 竹内敦子医師より「高次脳機能障害」という演題で講演がありました。

特に、失語症、空間失認といった、救急現場ではその診断が困難な神経障害についての講演で、医師、救急隊、看護師とあらゆる職種にとって非常に意義のあるものであり、改めて脳卒中診断の難しさを感じた検討会でした。今後も、これらの知識を救急現場に生かしていければと思っております。演者の皆様、ご出席の皆様、有難うございました。

## 医療安全シリーズ⑫

11.08 開催の  
医療安全セミナーより  
医療安全担当看護師長  
青木千利



## 一番大切なことは 一番大切なことを 一番大切にすること

学習する機会と最新の医療機器に恵まれた環境のなかにながら、私達は何故に苦しんでいるのか。良質の医療を提供する上で「知識と技術を磨く」ことが、医療に携わる者に課せられた、終わることの無いテーマである。

しかし、底辺でしっかりとそれを支えているのは個々人の思いや態度であり、それらを育む職場の風土が質の良し悪しを決定付けると言っても過言では無いように思う。

11月13日、当院の医療安全セミナーに“せいちゃんマン”がマントを翻しやって来た。マントを脱いだせいちゃんマンは、四国管財代表取締役の中澤清一社長である。

自ら「お客様係」と名乗り、些細な苦情も「宝物」として捉え、サービスの向上に取り組んでおられる。その成果は、院内で一緒に働いている四国管財社員の皆さんの、キッリとした身だしなみ、



## ハッスル研修医・第7回

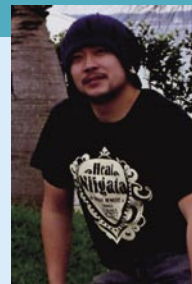
## 本当の自分が見えてくる

こんにちは。研修医一年目の小田です。早いものでもう一年が終わろうとしています。この原稿を書いているのは実は10月なのですが、掲載される頃には、正に忘年会シーズン真っ盛りといったところでしょうか。みなさん頭を悩まされている頃だと思われま。もちろん僕も頭をかかえてネタを考えているところです。

僕の大好きな〇〇トニオ猪木さんが言っていました。

「馬鹿になれ とことん馬鹿になれ  
恥をかけ とことん恥をかけ  
かいてかいて恥かいて 裸になっ  
たら見えてくる 本当の自分が見  
えてくる 本当の自分も笑ってた そ

研修医  
小田 和孝



れくらい 馬鹿になれ」

いいこと言いますね。これは決して脱ぐ芸をしるということではないですよ。あしからず。……

研修のことも書かないといけませんね。研修も循環器内科、消化器内科と内科を6ヵ月間回り、少しは視野が広がってきたでしょうか。これから救急、外科と経験し、1歩1歩医師として成長していきたいと思えます。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願いします。

へたな遠慮は「無責任」になる、「夢の実現には五つの法則」「諦めさえしなければ夢は必ず叶う」などなど、密かに覚えて暗誦したいような金玉良言がどっさりの中澤社長による講話



気持ちのよい笑顔の挨拶、テキパキした仕事ぶりと、その姿に大輪の花を咲かせている。

「陰口でもいい会社と言われる組織創

り」という演題は、私たち誰もが覗いてみたい気になる。“組織創り”が作でも造でも無いこだわりが、単に作るだけでも無く、極める目的でもなく、大切な目標に向かって始めようのメッセージを送っておられるのだろう。

平日の夕刻、108名の参加者の中には医師の姿も9名。

一番大切なことを、一番大切なことと気づき一番大切にすることができていますか？

そんな、人間らしい感性や労り、優しさを持った人達が組織人として成長していけるよう、せいちゃんマンはパワーを送ってくれた。

「いや～感動。力を貰った気がします」  
「今日の勉強会は面白かったので、次回からは自主的に参加します」。こんなアンケートのご意見が、せいちゃんマンの力にもなりますように……

最後に、中澤社長、失礼な表現の数々をお許し下さい。

## 家庭菜園っておもしろい～！

企画情報室 中山潤一

今年3月に安芸へ引っ越しをしました。家は少し高台で山に囲まれた場所にあります。

引っ越してから庭で野菜が作れたら楽しいだろうと思い、あまり手間がかからないということもあり、この秋にブロッコリの苗を買ってきて庭で育てています。

今まで野菜を買うことはあっても、育てることは一度もしたことがないのですが、苗がだんだん大きくなるのを見るのがとても楽しみです。収穫にはほど遠いですが、その時がくるのを楽しみにしています。



tel.088-826-8828  
fax.826-8838

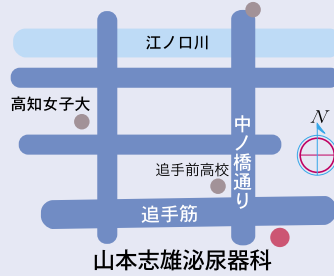
高知市追手筋一丁目  
高知メディカルプラザ4階

シリーズ●クリニック探訪28 **山本志雄泌尿器科**



院長・山本志雄(ゆきお)  
S26年11月22日、高知市生まれ。  
趣味は野球

http://homepage.mac.com/yamamot11221/Menu1.htm/  
● e-mail:yy1122@kcb-net.ne.jp



診療科目●泌尿器科

開業して7年目となりました。

病気の解説にはパソコンモニター画面を用い、自作の各疾患に対する病因から治療までを説明しています。患者さんに病態を充分理解して、治療を受けていただくように留意しています。

今後とも、泌尿器科専門医としてやっていきたいと考えています。

診療時間

※日祝は休診	月	火	水	木	金	土
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●
14:00~18:00	●	●	/	●	●	13:30~16:00

図書室便り (管理棟図書室 10月受入分)

- ・ CURRENT Diagnosis & Treatment ORTHOPAEDICS fourth Edition / HARRY B.SKINNER
- ・ 最新整形外科学大系 19 関節リウマチと類縁疾患 / 越智隆弘 (専門編集)
- ・ カラーアトラス 手・肘の外科 / 三浪明男 (編著)
- ・ 写真で学ぶ四肢関節のキャスト法 / 竹内義享 (他著)
- ・ プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 / 坂井建雄 (他著)
- ・ 救急蘇生法の指針 2005 医療従事者用 改訂3版 / 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 (編集)
- ・ トップジャーナルにアクセプトされる医学論文 執筆と投稿のキーポイント / 高橋弘
- ・ イラスト図解 病院のしくみ / 木村憲洋 (他著)
- ・ 平成19年版 厚生労働白書 / 厚生労働省 (監修)
- ・ 平成19年版 減価償却の耐用年数表 / 納税協会連合会編集部 (編集)
- 《別冊・増刊号》
- ・ 別冊整形外科 52 高齢者骨折に対する私の治療法 / 岩本幸英 (編集)
- ・ 別冊医学のあゆみ ウィルス感染症研究と臨床の最前線 / 小池和彦 (編集)
- 《ビデオ・DVD》
- ・ Audio-Visual Journal of JUA vol.13 No.4 / 日本泌尿器科学会 (監修)
- ・ VIDEO JOURNAL OF Japan Neurosurgery vol.15 No.4 / 日本脳神経外科学会 (監修)

編集室通信

▼最近、組織風土というものをつくづく考えさせられる。10月にオープンした近森オルソリハビリテーション病院の看護スタッフの大半は別法人出身である。パソコンを扱うことができても業務で使うのは初めて。新規入院患者もこれまでの数倍、PT、OT等の活発な動き等々、毎日めまぐるしく動いている状況に手一杯の状況ではないか。これまでゆったりとした流れの中でいた魚が急流に放り出された訳で、流れに流されないのに精一杯ではなからうか。近森の流れを変えるわけにはいかないが、近森のスタッフ全員で温かく見守りサポートすることが大事だと思う。一方、近森の組織風土をしっかり身につけて長崎リハの稚鮎たち、長崎の地で立派に泳ぎ回って花開いていただけると期待している。ガンバレッ! (かえる)